

平成28年度第7回社会教育委員会議抄録

日 時： 平成29年1月27日（金） 15時00分～15時50分

場 所： 西宮市役所 東館8階 804会議室

〔出席委員〕

伊 藤 篤	羽 田 英 彦
東 久 仁 夫	川 本 輝 子
片 山 幸 代	和 久 田 純 子
工 藤 好 彦	西 本 望
佐 藤 智 子	小 林 節 子

〔行政出席者〕

山本 教育次長	西村 社会教育部長
大和 学校教育部長	中島 社会教育課長
野田 人権教育推進課長	上田 中央公民館長
北 中央図書館長	牧山 青少年育成課長
飯干 青少年補導課長	坂井 社会教育課係長
今福 社会教育課副主査	木村 社会教育課嘱託員

署名委員

_____ 印

_____ 印

平成28年度 第7回社会教育委員会会議抄録

議長	<p>定刻になりましたので、ただ今より平成28年度第7回社会教育委員会議を開会させていただきます。本日の出席者は10名です。</p>
事務局	<p>本日の傍聴はありますか。 ございません。</p>
議長	<p>それでは議事の次第に従いまして協議に移ります。 報告第1号「平成28年度 地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰の報告について」です。</p>
事務局	<p>受賞内容につきましては、事務局よりお願いいたします。</p> <p>お手元の「資料2」をご覧ください。本市で実施しております『教育連携協議会』が文部科学大臣表彰を受賞いたしましたので、ご報告いたします。</p> <p>文部科学省では、地域と学校が連携・協働し、社会総がかりで未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動のうち、特に優れた活動に対して、文部科学大臣表彰を行っています。この度西宮市教育連携協議会及び教育連携（学校支援）事業の取組が評価され、平成28年度の「地域学校協働活動」の推進に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。全国で135団体が表彰を受けておりますのでそのリストを添付しております。県下では西宮市と伊丹市が受賞しております。</p> <p>教育連携協議会は市立小中学校全てに設置されており、教職員、PTA会長、青少年愛護協議会、自治会、民生・児童委員、スポーツクラブ21など様々な地域の方によって構成されています。協議会では校区の目指す子供像について話し合い、その実現のため、登下校の見守り活動、昔あそびなどの事業を行っていただいています。このような事業を通して、子供たちは地域とのつながりを深め、学校だけでは学ぶことができないことを学び、生きる力をはぐくんでいます。今回はこれらの実績に対して表彰をいただくことができたと思っております。</p> <p>昨年12月8日に文部科学省講堂で表彰式が行われ、西宮市学校園長会長である白井弘一大社中学校長と、長年大社中学校教育連携事業に携わってこられた、同校教育連携協議会委員長・平野美恵子さんに代表として出席していただきました。大社中学校だけでなく、全小中学校に対していただいたものですので、また2月7日に行われます教育連携事業の研修会でお披露目したいと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、協議事項第1号「ヒアリングをとおしてのまとめ」についてです。</p>
委員	<p>実施しましたヒアリングについて、出席いただいた委員から報告をお願いいたします。最初に、「広田コミュニティ委員会」での報告を、お願いいたします。</p> <p>地域によってどの団体が地域の中心になるかによって特色が出ると思われます。広田地区では、コミュニティ委員会が地域の中心となり、地域をつなぐ活動として、ポスターセッション展示、コバノミツバツツジの鑑賞、和菓子作り体験やわんわんパトロールなどの活動をされているそうです。これらの活動や地区の委員長が働きかけることにより地域のつながりを</p>

<p>議長 事務局</p>	<p>作っていますが、後継者づくりが課題とされていました。 以上です。</p> <p>続いて、「鳴尾東つながるプロジェクト」・「ボランティアセンター」での報告を事務局よりお願いします。</p> <p>まず「鳴尾東つながるプロジェクト」についてご報告いたします。これは関西学院大学の学生がフィールドワークやヒアリングを通して、地域の課題を発見・解決することを目的としたプロジェクトで、その中間報告会に参加させていただきました。当日はファシリテーターとして当該プロジェクトのコーディネーターの方が司会をされていました。</p> <p>まず、大学生が考えた住み続けたいまちとして、地域行事が盛んなまち、子育て支援や介護サービスが受けられるまち、人との温かいつながりがあるまちが挙げられていました。これらの3つの視点から、鳴尾東地域での現状を調査していました。地域資源マップ調査、ヒアリング調査、文献調査を実施しており、今回はそれによって見つかった課題の報告がされました。その課題として、担い手の不足、場の不足、情報が伝わりにくいという3点が挙げられていました。</p> <p>まず、担い手不足の原因について、①地域活動が活発な地域ほど若い活動者の負担が大きい。家族との時間を大切にすることが多く、生活パターンが変化している。②若い世代が地域とつながる機会が行事のみで、普段からつながる機会が少ない。③地域活動を担うことが大変だというイメージがついている。と分析していました。</p> <p>次に、場の不足について、①高齢者は喫茶店のように男性でも気軽に行けて、相談できる場所、②子育て世代は、子連れでもゆっくりできる場、預けられる場、安全に遊べる場、③障害のある人は、地域と交流・つながる場、バリアフリーが整った場がそれぞれ求められているのではないかと推測していました。</p> <p>情報については、便利なサービス、おもしろそうな活動を知らないということが多く、その原因として①情報を得る手段の変化（紙媒体では行き渡らない）、②掲示板が機能していない、③変化する情報を調べられない（毎年の見直しできていない）、④回覧・配布の負担が大きいといったことがあげられていました。</p> <p>これらの課題に対してどう取り組んでいくのか、地域とどう関わっていくのか、今後も報告があればみなさんにお伝えしていければと思います。</p> <p>続きまして、「西宮市社会福祉協議会ボランティアセンター」についてご報告します。この施設は、各社会福祉協議会の分区にもボランティアセンターがございしますが、それを取り仕切っています。最近、子供と家庭を支援するボランティアの要望が多いとお話でした。依頼者と支援者をできるだけ同じ地区で探すことによって、子供の成長過程を見守ることができるようにしているそうです。ボランティアを募集するだけでは人は集まりにくいですが、コーディネーター養成講座などを実施することによって、その講座をきっかけにボランティアに興味を持ってもらい、次につなげていくというお話がありました。また、こちらでは子供のころから福祉について学んでほしいということで、冊子を作って、授業に取り入れてもらうようにしているということでした。 以上です。</p> <p>議長 委員</p> <p>「新あいち」での報告を、お願いします。</p> <p>はい。神戸灘区民ホールで行われております灘区連合婦人会と神戸大学主催の「新あいち」を見学してまいりました。様々な障害を持った子供と</p>
-------------------	---

<p>議長 委員</p>	<p>大人を、地域の方や学生が学習や遊びを通して見守っており、1対1で勉強を見ている姿や、子供たちが自由に遊んでいる姿が見られました。子供の居場所づくりという事業を通して、地域や学生の力で成り立っているすばらしい場だと思いました。</p> <p>「のびやかスペースあーち」での報告をお願いします。</p> <p>私がここに参加させていただいたのは、甲山高校の生徒が来られるということを知り、高校生がどういう形で参加するのかに興味があったからでした。そこに行かせていただいたときにまず感じたのは、「のびやかスペースあーち」という大きな看板が立っており、地域の方にとっての居場所になっているのだなということでした。この日は12月の誕生日会というイベントで、お父さんお母さんと子供で参加されている方が10組程度いらっしゃいました。高校生は歌や読み聞かせをして子供たちを楽しませており、高校生の新しい姿を見ることができました。その後参加者と高校生が交流をしており、これが多世代交流の形だと教えていただきました。応対者にお話をうかがったところ、必要としている人が来てくれているのが課題であり、本当に来てほしい方に来ていただくには1対1の人間関係の中でお誘いしてもらった必要があるとおっしゃっていました。なぜここまでしっかりとした取組ができているのか考えると、大学と行政とでしっかりとした土台が築けていることが大きいと思います。これからは福祉も官学協働というのが目指す形なのかなと考えました。</p>
<p>議長 委員</p>	<p>「えいごワークショップ in 武庫川女子大学」での報告をお願いします。</p> <p>武庫川女子大学で行われている「えいごワークショップ in 武庫川女子大学」を見学に行かせていただきました。鳴尾小学校、甲子園浜小学校、春風小学校の4～6年生が30人ほど参加していました。2020年に小学校でも英語教育が導入されることを見据え、小学生が英語に親しむ機会を増やすとともに、大学生の英語指導の実践力を身につけることを目的とした活動でした。ワークショップでは、30人を10人ずつに分け、映画やクイズなどを使い、楽しくわかりやすく学ぶことができるようになっていました。西宮市には多くの大学があるので、こういった取組みが広がればよいと思います。以上です。</p>
<p>議長 委員 事務局</p>	<p>ここまでで、何かご質問やご意見はございますか。</p> <p>「鳴尾東つながるプロジェクト」のファシリテーターも地域の方ですか。</p> <p>はい、そうです。</p>
<p>議長</p>	<p>「新あーち」及び「のびやかスペースあーち」について、私も関わっているため補足説明をしたいと思います。「あーち」と「新あーち」について、理解しがたいと思いますが、今までの「あーち」は灘区役所の2階の部屋を無償で借りて実施していました。そこで、神戸市から、平成29年度からは区民ホールを無償で貸すので婦人会と一緒に活動してほしい、金曜日だけ子ども食堂と学習支援だけでも今年度から区民ホールでやってもらえないかと提案がありました。そのため、来年度からは「新あーち」「あーち」の2つを全て区民ホールに移すということになっています。ただ、これらは誰でも来られるようになっているので、テーマ型コミュニティとわれわれは呼んでいます。このやり方が地縁型のコミュニティにどこ</p>

委員	<p>まで当てはまるかというのは疑問だと感じています。</p>
議長	<p>こういった場所があるのはすばらしいと思います。こういった場所が広がればよいと思います。</p> <p>やり方のモデルにはなるかもしれませんね。</p>
事務局	<p>次に、前回の会議で、公民館活動推進員が予定していたのですが、説明のお時間がなかった事項について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>元公民館活動推進員のお2人へ、事務局から4点ほどお尋ねしておりました件について、ご回答をいただいておりますので、補足説明をさせていただきます。</p> <p>『地域住民自らが、どのように地域課題を掘り起こしているのか』について、それぞれ自分たちの地域では、「今何に興味があるのか」「どのようなことが問題になっているのか」「どのようなことを求めているのか」を考えながら講座を企画しています。</p> <p>『その課題解決に向けて、どのように講座を企画しているのか』については、例えば、若いお母さんたちに「公民館講座でこんな楽しいことがあるよ」と児童館に公民館講座のポスターをはり、指導員さんにもロコミで広報していただいたり、男性の方が好む「時事問題講座」「落語・講談」「大河ドラマの解説」などを企画実施したりするなどの工夫をされています。</p> <p>『講座を企画・実施した成果についての評価をどう捉えているのか』について、成果というものはなかなか捉えにくいところがありますが、講座のあとに参加者の表情が明るくなり、「楽しかったよ」「元気が出たよ」とお礼を言って帰られたり、子育て講座の実施後に同じ立場のママ友ができた嬉しんで帰られたりする若いお母さんを見ると、推進員として大きな励みになるそうです。</p> <p>また、講座実施後に、担当推進員や世話人の報告をもとに、アンケートや参加者の声を参考に定例会で討議し、次回に生かすようにされています。</p> <p>『推進員活動は、目的に沿った活動になっているのか、いない面があるとするればその課題とはどのようなものか』についてですが、推進員活動は目的に沿った活動になっています。リーダーや公民館職員によって、方向性も違うようですが、推進員は目的に向かって努力をされています。</p> <p>また、公民館の講座が住民の集まりの中で話題になっており、住民が自由に利用できる公民館で推進員を介して住民が企画した講座は、関心度も高く、地域に根ざした推進会は目的に沿っています。</p> <p>発展的なコミュニティ形成に必要な社会教育は、多様化した現代に住民・地域の諸団体・公的機関と推進会が連携してできることであり、学んだことを社会に生かせるような仕組みのまちづくりを地域社会全体で考え目指すべきであるとのことでした。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これまでさまざまなヒアリングを実施してまいりました。これらの事例から、市内でも地域においてすばらしい取組をされているなど、多くのこと</p>

	<p>を学びました。これらを踏まえて、今後は答申に向けて意見を整理していきたいと思っておりますので、委員の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の会議は、これで終了いたします。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	--